

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 29 日現在

機関番号：27104

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2010～2014

課題番号：22243041

研究課題名(和文)岡山孤児院の国際性と実践内容の質的分析に関する総合的研究

研究課題名(英文)A comprehensive study about the internationality of The Okayama Orphanage and qualitative analysis of its practice contents.

研究代表者

細井 勇 (Hosoi, Isamu)

福岡県立大学・人間社会学部・教授

研究者番号：70190204

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 31,000,000円

研究成果の概要(和文)：我々は石井十次によって1887年創設された岡山孤児院の国際性に着目した。石井は児童養護実践のモデルをバーナードホームに求めた。そこで細井、三上、高松等は数回にわたって英国のバーナードズを訪問し、史料収集を行った。安東は岡山孤児院による海外での慈善音楽幻燈隊の活動を調査するため海外調査を実施した。菊池は、石井死去後松本圭一によって開設された農場学校について研究した。そしてこれらの調査研究の成果を複数の論文に纏めた。

また、石井十次資料館所蔵史料等を調査し、写真集と高鍋町立図書館所蔵の関連史料目録を作成した。

研究成果の概要(英文)：We focused on its internationality of The Okayama Orphanage founded by Ishii Juji in 1887. Ishii referred to his child care practice from Dr. Barnardo's work. So our researcher, Isamu Hosoi, Kunihiko Mikami, Makoto Takamatsu and others visited the Barnardo's archives in Britain several times and collected its historical records. In addition, our research member, Kuniaki Ando visited foreign countries and investigated an activity of the music and magic lantern band which Okayama Orphanage operated. Yoshiaki Kikuchi studied about The Farm School founded after Ishii's death by Matsumoto Keiichi one of Ishii's successor. We have done these investigations and edited several theses. In addition, we researched historical sources which Ishii Memorial Museum possess and We made a Okayama Orphanage photograph collection and a catalog of historical sources related to The Okayama Orphanage which Takanabe township library possess.

研究分野：社会福祉

キーワード：社会福祉関係 岡山孤児院 石井十次 バーナードズ

1. 研究開始当初の背景

(1)石井十次が1887年創設した岡山孤児院とその事業は近代日本を代表する慈善事業であった。そこで2001年度より2004年度まで科研費を得て、「石井十次と岡山孤児院の養護実践の基礎的研究」をテーマに共同研究を行い、2005年、科研費報告書『石井十次と岡山孤児院の養護実践の基礎的研究』を刊行した。

(2)2006年度から2009年度まで科研費を得て、「岡山孤児院におけるネットワーク形成と自立支援に関する総合的研究」をテーマに共同研究を行った。2009年には研究代表者細井は、これまでの研究を集大成して『石井十次と岡山孤児院 近代日本と慈善事業』を出版刊行した。また2010年科研費報告書『岡山孤児院におけるネットワーク形成と自立支援に関する総合的研究』を刊行した。

(3)この間、宮崎県児湯郡木城町にある石井記念友愛社の石井十次資料館所蔵史資料の調査整理、目録化を共同で行い、4冊の資料目録を刊行した。また、史資料整理の成果として2009年、細井勇・菊池義昭編『岡山孤児院関係資料集成』全3巻を出版刊行した。

2. 研究の目的

(1)石井十次による1887年の岡山孤児院の創設は、この年のジョージ・ミュラーの来日を契機とするものであり、また、アメリカン・ボード (American Board of Commissioners for Foreign Missions) の全面的支援によるものであった。その後石井は救世軍やバーナード・ホームに実践のモデルを見出していった。明治30年代には新たな寄付金募集の方法として慈善音楽幻燈隊を組織し、全国で巡回活動を展開したばかりでなく、韓国、台湾、清国、ハワイと海外にまで活動を拡げていった。

以上、近代日本の慈善事業の中で岡山孤児院ほど国際性に富む実践はない。そこで本共同研究は、これまでの石井十次と岡山孤児院の研究を岡山孤児院の国際性に着目して発展拡充させることを目的とした。より具体的には、連携研究者、研究協力者等の役割分担の下に以下の内容を主な研究目的とした。

岡山孤児院創立期において、石井とアメリカン・ボードの関係を仲介したのが岡山ステーションの宣教師 J.H.ペティーであった。そこで研究代表者の細井は、ペティー及びアメリカン・ボード側から見た岡山孤児院について新たな研究に取り組むことにした。

慈善音楽幻燈隊の韓国、清国、ハワイ等への海外派遣活動についてはこれまで研究されてこなかった。そこで安東と菊池は、岡山孤児院の国際性を最もよく表現する海外での慈善音楽幻燈隊のついての研究に新たに取り組むことにした。

1909年、植民地での慈善音楽幻燈隊を通じた寄付金募集は批判されるようになり、また国内においても他の慈善団体が主催す

る慈善音楽会等と競合関係が発生するようになっていた。さらに、音楽隊として児童を寄付金募集に動員することの教育的弊害への自覚から1911年には慈善音楽幻燈隊を通じた寄付金募集は中止された。この時期石井は事業の拠点を岡山から茶臼原孤児院に移し、農業的な独立自営を目指すようになっていく。石井死去後、事業を引き継いだ大原孫三郎は、1915年松本圭一を通じて農場学校を創設した。それは、石井が晩年に目指した最終的な貧孤児の自立支援策としての農業的独立自営に道を開くものであった。岡山孤児院が目指した自立支援策を研究してきた菊池は、最終的な自立支援策として、農場学校の運営についての研究に新たに着手することにした。

石井十次は養護実践のモデルを英国のバーナード・ホームに求めていった。そこで細井、三上、高松等は、岡山孤児院とバーナード・ホームの比較研究を目指してバーナード・ホーム (現在はバーナードズ) 本部を訪問し、本格的研究に着手することにした。さらに、研究成果を社会的養護界に共有してもらうことを意図として、バーナードズ本部の関係者を日本に招聘し国際セミナーを開催することを目標に据えることにした。さらに、岡山孤児院とバーナード・ホームの比較研究を日英の児童ケアの比較研究として発展させたいと考えた。

(2)約20年前から共同で着手してきた石井十次資料館所蔵史資料調査を継続することを目的とした。より具体的には、第1に、石井十次資料館に所蔵された写真を改めて分類整理し、一冊の写真集に編纂すること、第2に、高鍋町立図書館所蔵の岡山孤児院関係資料を目録化すること、第3に大阪の石井記念愛染園の石井十次記念室所蔵の史資料の整理を共同で行うことを目的とした。

3. 研究の方法

以上の研究目的を実現するための方法は以下の通りである。

の目的を達成するため、アメリカン・ボードの資料が保存されているハーバード大学ノートン図書館等を訪問し、資料収集することにした。また、アメリカン・ボードの機関誌 The Missionary Herald に掲載された J.H.ペティーの関係記事を主な資料源として研究を進めることにした。

慈善音楽幻燈隊の海外派遣について、岡山孤児院の機関誌『岡山孤児院新報』に多くの関係記事が掲載されている。安東は、さらに韓国、台湾、上海、ハワイ等現地を訪問し、現地の教会関係、YMCA 関係者から情報収集することにした。韓国については岡山孤児院と関係した京城孤児院に注目し、蔚山大学図書館所蔵の『皇城新聞』『大韓毎日申報』等の掲載記事を渉猟した。

菊池は清国における慈善音楽幻燈隊の活動を調査するため、中心的な担当者であった

赤野五十二による詳細な記録から研究を行った。

農場学校の研究のため、石井十次資料館に所蔵されている史資料、とくに『岡山孤児院年報』、「茶臼原農村」関係資料、松本圭一による手記を活用することにした。

バーナード・ホームについての本格的研究に着手するためにはロンドン近郊のパーキングサイドにあるバーナードズ本部のアーカイブを訪問し、資料収集する必要があった。このため細井、三上、高松等は2011年3月、初めてバーナードズ本部を訪問し、資料収集に着手し、その後のべ合計5回、本部を訪問することになった。この訪問を通じて、国際セミナーの開催に向けての協議を行った。

(2)の目的を達成するため、共同で石井十次資料館所蔵の写真資料の整理作業を行った。高鍋町立図書館所蔵関係資料については図書館の協力を得て、関係資料をすべてお借りし、複写させていただいた。菊池、元村等は大阪愛染園所蔵資料について整理作業を行った。

毎年、8月に石井記念友愛社で研究会を開催し、石井記念友愛社が主催する石井十次セミナーの企画実施に参画し、毎年発行の『石井十次資料館研究紀要』に研究成果を掲載することにした。

4. 研究成果

(1) アメリカン・ボード側から見た岡山孤児院について

細井は研究成果を「アメリカン・ボード宣教師 J.H.ペティーから見た岡山孤児院 The Missionary Herald の掲載記事より」(2015)に纏めた。国際伝道会社としてのアメリカン・ボードが一慈善団体である岡山孤児院事業を全面的に支援したのは異例である。本研究はその理由を改めて解明しようとした。すなわち、ペティーはボードの機関誌 ミッションナリー・ヘラルドに石井の事業を紹介する上では、石井は岡山教会の一員として岡山孤児院事業を担い、岡山ステーションとしての伝道事業を担ったことを強調した。そのことでアメリカン・ボードからの支援を受けやすくするよう腐心したことを明らかにした。また、移動が激しく滞在期間の短い外国人宣教師が通例にあるのに対しペティーは例外的な存在であり、生涯にわたって岡山ステーションに留まり、石井を東洋のミューラーとして捉え、その霊性の人格に特別の共感と理解をもったことを明らかにした。

なお、ミッションナリー・ヘラルドの掲載記事からペティーは、1893年石井が実現させた出獄人保護事業に特別注目し、そのキリスト教監獄伝道に仏教に対する優位性を強調したことを明らかにした。

(2) 海外での音楽幻燈隊の活動等について

安東は、石井十次と植民地化した朝鮮半

島との関係を継続して研究し、その中で1903年から1909年にかけて通算5回、韓国に派遣された慈善音楽幻燈隊の活動について研究を行った。その研究成果を「石井と朝鮮半島 日韓キリスト教の相克」(2011年)、「石井十次と朝鮮半島 報道された岡山孤児院を巡って」(2012)、「岡山孤児院と京城孤児院 日韓関係史のなかの岡山孤児院の役割」(2014)等に纏めた。

1906年、韓国人自身の手による最初の孤児院として京城孤児院が創設された。創立者の李は、創立後まもなく実践上のモデルを求めて岡山孤児院を来訪している。しかし、経営上の問題を抱え、その後京城孤児院は朝鮮総督府済生院に移管されることになる。こうしたおおまかな経緯はこれまで知られていたが、安藤は植民地時代の新聞『皇城新聞』『大韓毎日申報』に掲載された関係記事を渉猟し(2014年「資料集」を編纂、掲載記事を纏めている)、詳細な検討を初めて行った。

すなわち、石井十次自身の朝鮮半島進出への想い、それが韓国への慈善音楽幻燈隊の派遣に繋がっていったこと、日韓併合後寺内正毅による石井への韓国分院建設への働きかけがあったこと、しかしその後石井が慈善音楽幻燈隊の海外派遣を中止し、茶臼原孤児院の農業的独立自営へと石井の姿勢が変化し、朝鮮進出を断念したこと、そうした経緯の中で1911年、朝鮮総督府の手によって済生院が設立されていく経緯を人脈に焦点を当てながら、また、植民地支配の政治史やキリスト教史の文脈から分析した。

石井死去後の1919年、朝鮮総督府済生院は岡山孤児院に対し質問状を送り、茶臼原孤児院での院児の農業的自立支援策について尋ねている。石井はバーナード・ホームに実践上のモデルを求め、京城孤児院及びその後の済生院は実践上のモデルを岡山孤児院に求めていった。こうした国際的交流史に岡山孤児院事業の国際性がよく表現されていると言えよう。

安東はまた、1899年から1906年にかけて計3回実施されたハワイでの慈善音楽会の活動に目を向け、現地の教会関係者から情報を収集し、その研究成果を「ハワイにおける日系人社会の形成と岡山孤児院」(2015)等に纏めている。ハワイ出身のO.H.ギュリックがアメリカン・ボード宣教師として来日したこと、石井とギュリックとの間に親交があったことが、ハワイへの慈善会派遣の背景にあったことを明らかにした。

なお、安藤は関門地区のキリスト教史の研究を継続しており、関門地区における慈善音楽幻燈隊の活動について関係論文で明らかにしている。

菊池は、1906年から1909年にかけて通算5回実施された清国への慈善音楽幻燈隊の派遣活動につて、これを中心的に担った赤野五十二の資料から詳細な分析検討を行い、「岡山孤児院の音楽活動写真隊と清国での慈善

会の開催実態の分析 赤野五十二準備員が残した1907年から1909年の慈善会関係資料を通じて「(2012)に纏めた。こうした海外での寄付金募集を通じて多額の寄付金が集まり、1906年の東北凶作地貧孤児救済のため1000人規模に拡大した岡山孤児院経営を支えることになった実態を解明した。大連旅順等植民地各地での慈善会は、現地での官民一体となった全面的支援を得たものであった。しかし、1909年になると様相は一変し、岡山孤児院の慈善会は植民地の利益にはならないと批判を浴びるようになり、慈善会は失敗に終わる。もはや官民一体の協力支援は得られなくなり、石井は海外での慈善音楽幻燈隊の活動に終止符を打つことを決意していく。その経緯を菊池は詳細に明らかにした。

(3) 松本圭一による農場学校の研究

菊池は、石井による岡山孤児院経営を貧孤児救済から、学校教育、職業教育、最終的な自立支援へと一貫した処遇構想とその実現過程として捉えてきた。そのため、石井死去後の大原孫三郎による茶臼原孤児院経営、そこにおける松本圭一を招聘しての1915年の農場学校の開設を、石井が構想した自立支援策の最終的な実現過程として捉える。そのため菊池は、『岡山孤児院年報』、「茶臼原農村」関係資料、松本圭一による手記を活用しながら、農場学校における教育実践の内容を詳細に分析検討し、以下の論文に纏めた。すなわち、「岡山孤児院の農場学校開校1年目の教育実践の内容とその実績」(2013)、「岡山孤児院の茶臼原農場学校での2年目の教育実践の内容とその実績」(2015)、「岡山孤児院の茶臼原農場学校での3年目の教育実践の内容と練習農場の開設」(2015)である。

とくに財政的収支に着目し、その財政の約8割が岡山本部からの補助金によって賄われたことを明らかにした。また農場学校入学者の属性を明らかにし、将来への自立の目途が立たない入学生の不安と、練習農場の開設を通じて不安が解消され、農業的独立自営の道が開かれていく経緯を明らかにした。一方で農場学校の卒業生の中には農場に従事することを嫌って都会に逃れていく者のあったこと、その挫折から農場学校へ復帰する例が紹介されている。

なお、菊池は、東北三県凶作で岡山孤児院が収容した長期在院児への養護実践についても諸論文に纏めている。

(4) バーナード・ホームに関する研究

本共同研究は、1870年ドクター・バーナードによって創設されたバーナード・ホーム(現在はバーナードズ)本部を数回訪問し、資料収集を行い、本格的な研究に着手し、以下一定の研究成果を挙げることができた。

三上は、「ドクター・バーナード・ホームに関する先行文献」(2012)を著し、バー

ナード・ホーム研究に着手する上での準備作業として、ドクター・バーナードに関する先行文献を紹介し、また、リバプール大学が保管する資料目録を紹介した。

三上、高松、飛田等は2011年3月、初めてバーナードズ本部のアーカイブを訪問調査し、その成果を「ドクター・バーナード・ホームにおける博愛慈善事業の歴史的展開 英国 Barnardo's Archives 資料調査を通して」(2012)に纏めた。その後も三上はバーナード・ホームを英国の社会的養護史の中に位置づける研究を行った(2015)。

高松は、ドクター・バーナードが直面することになった監護権をめぐる3つの裁判闘争に着目し、詳細な分析検討を行い、1891年検討を行い、1891年のバーナード法と呼ばれた児童監護法に結実する経緯を研究し、「ドクター・バーナードホームにおける児童養護実践 - ハリー・ゴセージケースを例として」(2015)等にその成果を発表した。なお、高松による一貫したバーナード・ホーム研究の成果は学位論文「ドクター・バーナードホームの児童養護実践と英国1891年児童監護法の成立 1880年代後半の裁判事例を中心にして」(2015)に結実した。

細井、津崎(哲雄)は、2012年7月、ストックホルムで開催された国際ソーシャルワーク会議で口頭報告を行い、石井による岡山孤児院経営とドクター・バーナードによるバーナード・ホーム経営を日英の児童ケア比較史の中で比較し報告した。両事業創設の時代背景と宗教的動機については共通しているが、第2次世界大戦後の児童福祉の制度化の方向は日英で大きく異なり、そのことが両民間団体のあり方を大きく変えた結論づけた。すなわち一方における脱施設化の方向と一方における施設養護の維持である。

2013年8月にはバーナードズ本部から2名の代表者を日本に招き、宮崎県高鍋町と東京で関係学会の協力を得て国際児童セミナーを開催した。三上、高松等はセミナーの資料集を編集した。

その後細井は、1960年代から1980年代にかけてのバーナード・ホームからバーナードズへの脱施設化の変革、そして1870年代から1970年代までの出自を知らせないことが子どもの利益になる、という発想から1990年代以降の出自を知らせることこそがケア・リーヴァーのアイデンティティ保障に欠かせない、という認識への転換の経緯、ケア・リーヴァーへのアイデンティティ保障支援として開始されたバーナードズ、メイキング・コネクションの活動に着目した。その研究成果を「児童ケアの目的と方法：アイデンティティの観点から バーナードズと岡山孤児院の比較検討を通じて」(2012)に纏めた。現在の日本の児童福祉はこうした観点はなく、ケア記録の保管規定も情報開示規定も欠いている問題を指摘した。

滝澤は、当時の婦人雑誌「家庭婦人」に

掲載された「バーナード・ホームの働く女性たち」を取り上げ、その時代背景と掲載記事の意義を考察した(2015)。

(5) その他の研究

滝澤(2012、2013等)は、石井十次と親交のあった増野悦興について継続して研究し、杉山(2015)は石井十次の信仰について、先行研究でどう捉えられてきたかを分析検討した。元村(2015)は、石井十次資料館所蔵資料の整理について考察している。稲井(2015)は、教育史の観点から岡山孤児院ないし愛染園保育所と二葉幼稚園の關係に着目した。通例、個別の慈善事業団体ごとの通史的研究がほとんどの中で、保育所と幼稚園の關係を分析した。小野(2012、2015)は、明治期の救世軍と石井十次との關係を明らかにした。

(6) 写真集及び高鍋町立図書館所蔵関連資料の目録化等

石井十次資料館所蔵資料の整理目録化の作業を継続し、これまでの4冊の資料目録に追加して、石井十次資料館の所蔵された岡山孤児院關係の写真を分類整理し、「写真集」に纏めた。また、高鍋町立図書館所蔵の岡山孤児院關係資料について、これまでの資料目録の形式で資料目録を編纂した。

岡山孤児院史研究における一義的な資料源は、岡山孤児院の機関誌『岡山孤児院月報』『岡山孤児院新報』である。これまでの資料整理の成果として2014年、菊池義昭・細井勇編・解説『史料・岡山孤児院』全5巻を六花出版から刊行することができた。細井はこれらの機関誌刊行の背景と特徴を解説した。すなわち、機関誌刊行の契機が岡山孤児院活版部の開業であったこと、また機関誌の終焉は、活版部の閉鎖であり、慈善音楽幻燈隊による寄付金募集の廃止と連動したことを明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計18件)

細井 勇「アメリカン・ボード宣教師J・H・ペティーから見た岡山孤児院 The Missionary Herald の掲載記事より」『石井十次資料館研究紀要』査読無、別冊、2015、pp95-106

菊池 義昭「岡山孤児院の茶臼原農場学校での2年目の教育実践の内容とその実績」『石井十次資料館研究紀要』査読無、別冊、2015、pp2-41

菊池 義昭「岡山孤児院の茶臼原農場学校での3年目の教育実践の内容と練習農場の開設」『石井十次資料館研究紀要』査読

無、別冊、2015、pp42-83

小野 修三「明治期の救世軍と石井十次」『石井十次資料館研究紀要』査読無、別冊、2015、pp143-156

杉山 博昭「石井十次の信仰について キリスト教史・キリスト教社会福祉史研究での扱いをめぐる」『石井十次資料館研究紀要』査読無、別冊、2015、pp158-167

三上 邦彦「西欧における子どもの権利の変遷とバーナード・ホームの児童養護実践の意義」『石井十次資料館研究紀要』査読無、別冊、2015、pp168-188

元村 智明「石井十次関連史資料の調査および史資料概要 石井十次記念室と高鍋町立図書館を中心に」『石井十次資料館研究紀要』査読無、別冊、2015、pp235-240

菊池 義昭「東北三県凶作で岡山孤児院が収容した長期在院児への養護実践の歴史的役割(3) 1918(大正7)年に退院した東北児を中心に」『石井十次資料館研究紀要』査読無、15号、2014、pp75-113

菊池 義昭「東北三県凶作で岡山孤児院が収容した長期在院児への養護実践の歴史的役割 1911年から1914年までに退院した東北児を中心に」『東北社会福祉史研究』査読無、32号、2014、pp1-33

細井 勇「児童ケアの目的と方法：アイデンティティの観点から バーナードズと岡山孤児院の比較検討を通じて」『キリスト教社会福祉学研究』査読有、45号、2013、pp16-30

菊池 義昭「岡山孤児院の農場学校開校1年目の教育実践の内容とその実績」『石井十次資料館研究紀要』査読無、14号、2013、pp95-151

菊池 義昭「岡山孤児院の「茶臼原農村」づくりと農場学校開校の前提条件」『ライフデザイン学研究』査読有、7号、2012、pp143-179

菊池 義昭「岡山孤児院の音楽活動写真隊と清国での慈善会の開催実態の分析 赤之五十二準備員が残した1907年から1909年の慈善会關係資料を通して」『石井十次資料館研究紀要 別冊1(研究費中間報告書)』査読無、別冊1、2012、pp38-125

三上 邦彦「ドクター・バーナード・ホー

ムにおける博愛慈善事業の歴史的展開
英国 Barnard's Archives 資料調査
を通じて 』『石井十次資料館研究紀要』
査読無、13号、2012、pp5-61

三上 邦彦「ドクター・バーナードに關する
先行研究」『石井十次資料館研究紀要、
別冊(科研費中間報告書)』査読無、別冊
1、2012、pp2-37

三上 邦彦「ドクター・バーナード・ホーム
の慈善事業による子どものケアに關する
研究 創設の背景と設立前史 』『岩手
県立大学社会福祉学部紀要』査読有、14
号、2012、pp49-54

小野 修三「明治日本における石井十次と
救世軍に關する一考察」『慶應義塾大学日
吉紀要 社会学』査読有、22号、2012、
pp1-23

菊池 義昭「岡山孤兒院の「茶臼原農村」
づくりにおける物的環境条件の整備過程
1905年から1907年頃までの茶臼原孤
兒院の働きを中心に 』『石井十次資料館
研究紀要』査読無、12号、2012、pp4-69

〔学会発表〕(計4件)

細井 勇「歴史から学ぶ社会的養護実践」
日本児童養護実践学会第5回大会、2015
年2月15日、目白大学(東京都新宿区)
細井 勇「児童ケア・リーヴァの出生記録
及びケア記録へのオープンアクセスにつ
いて 英国バーナードズの経験から リ
ーヴァ 』日本社会福祉学会第61回秋季
大会、2013年9月21日、北星学園大学
(東京都豊島区)

細井 勇「日英の児童保護の比較研究 バ
ーナードホームと岡山孤兒院の実践史の
比較を通じて 』日本社会福祉学会第60
回大会、2012年10月21日、関西学院大
学(兵庫県西宮市)

Isamu hosoi, Tetsuo Tuzaki: *Trends in
Policy and Practice for vulnerable
children: A Comparative Study of
Residential Child Care in Japan and
Britain on : Okayama Orphanage and
Barnard's Joint World Conference on
Social Development*、2012.7.9、
Stockholm(Sweden)

〔図書〕(計4件)

菊池 義昭・細井 勇編・解説、六花出版
『史料・岡山孤兒院』全5巻、2014、1752

日本キリスト教社会福祉学会編、阿部志
郎・岡本栄一監修、ミネルヴァ書房『日
本キリスト教社会福祉の歴史』2014、49

室田 保夫編著、ミネルヴァ書房『人物で
よむ西洋社会福祉のあゆみ』2013、263

室田 保夫、関西学院大学出版会『近代日
本の光と影 慈善・博愛・社会事業をよ
む 』2012、462

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

細井 勇(HOSOI, Isamu)
福岡県立大学・人間社会学部・教授
研究者番号: 70190204

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

小野 修三(ONO, Syuzo)
慶應義塾大学・商学部・教授
研究者番号: 90103902

菊池 義昭(KIKUCHI, Yoshiaki)
東洋大学・ライフデザイン学部・教授
研究者番号: 50258927

佐藤 繁美(SATO, Shigemi)
福岡県立大学・人間社会学部・助手
研究者番号: 80254647

杉山 博昭(SUGIYAMA, Akihiro)
ノートルダム清心女子大・人間生活学部・教
授
研究者番号: 20270035

永岡 正己(NAGAOKA, Masami)
日本福祉大学・社会福祉学部・教授
研究者番号: 20121486

三上 邦昭(MIKAMI, Kuniaki)
岩手県立大学・社会福祉学部・教授
研究者番号: 20381311

室田 保夫(MUROTA, Yasuo)
関西学院大学・人間福祉学部・教授
研究者番号: 90131614

元村 智明(MOTOMURA, Tomoaki)
金城大学・社会福祉学部・准教授
研究者番号: 60340022

(4) 研究協力者

安東 邦昭(ANDO, Kuniaki)

稲井 智義(INAI, Tomoyoshi)

滝澤 民夫(TAKIZAWA, Tamio)

高松 誠(TAKAMATSU, Makoto)